ながの環境パートナーシップ会議
ニュースレター
37号

手をむすんで

H28.5

長野市の環境ビジョン

山にみどり・川に清流・谷に風・空に星　自然と和して発展するまち・人のくらし　みんなの知恵と行動でつくる環境・未来・ながの

「つなぐ・伝える・行動する」

「アジェンダ21ながの-環境行動計画-2013」に掲げる長野市の環境ビジョンの実現のため、ながの環境パートナーシップ会議は「つなぐ・伝える・行動する」を運営方針として掲げています。

「つなぐ・伝える・行動する」
分かるような、よく分からないような
「つなぐ」って何だろう？
「伝える」誰に何を伝えるんだろう？
「行動する」誰と？　どこで？　いつ？

こんな疑問を持った　手をむすんでの編集委員は、方程式を作りました。

方程式

$$\frac{\text{≪達成＋共感＋継続≫×ミッション}}{\text{人《分け合う（シェア）・サポート（支援）》}} = \text{持続可能}$$

「つ な ぐ」生命をつなぐ、想いをつなぐ、未来へつなぐ
必要なときに必要としている人をつなぐ…

「伝 え る」知恵、情報、アイディア、価値観、想いを
世代を超えて皆が幸せになるために

「行動する」やりたいこと、できること、やるべきことを
一人でなく皆で、継続して定期的に、
繰り返し元気なうちに、今やる

方程式の中にはどんな想いがはいりますか？
持続可能な「環境・未来・ながの」を目指して見つけてみませんか？

≪最終号は各プロジェクトチームから「ミッション達成の検証と今後10年を見据えて」と題して寄稿いただきました。≫

市民の森づくりプロジェクト
チームリーダー　堀池政史

ミッション達成の検証と今後10年を見据えて

●活動の目標

【イベント参加人数】

設立当初は年間500名程度の参加人数を目標としていましたが、最近では700名から900名の参加が見込まれています。

【市民の森建設】

第2、第3の市民の森を設けたいという目標のもと、様々な場所を地元の方と話し合ったりしながら検討しました。まだ正式な設立には至っていませんが共同作業などの実施が幾つか行われるようになってきました。しかし、完全に市民の森として開放することへの不安や、自分たちで森を維持管理することへの負担感などは拭えないようです。

【森林整備技術の習得と伝承】

森林整備の技術を学んだり、安全な施行の実施のためのノウハウを習得するために会員自らが積極的に様々な講習会に出向いたり、講師を招いて学びのチャンスとしました。

●活動内容

【各種イベント】

年間に秋の里山散策、きのこのコマ打ち体験、かんじき制作体験などを企画実施しています。その他にも、自然観察会など実施しています。

【森業講座】

毎年25名近い参加者があり、すでに受講者は延べ200名を超えています。多くの反響を頂いていて、平成28年度から講座の全課程を終了した受講者には「伐木造材特別教育（安衛則第36条第8号）の課程修了」と認定され、労働基準法上の有資格者として認定される様になりました。

●将来像

四方を山に囲まれた長野市には、手入れされた里山があり、そこには多様な動植物が暮らす豊かな森があります。人々はこの里山を利用し、楽しみ、未来につなげる自然の大切さについて学ぶことができます。そんな市民の森をぜひ作っていきます。

林業講座

レジ袋使用削減プロジェクト
チームリーダー　渡辺ヒデ子

マイバッグ持参が当り前の街に！

強化キャンペーン、中央通りでエコネコもお手伝い（H25年、10月）

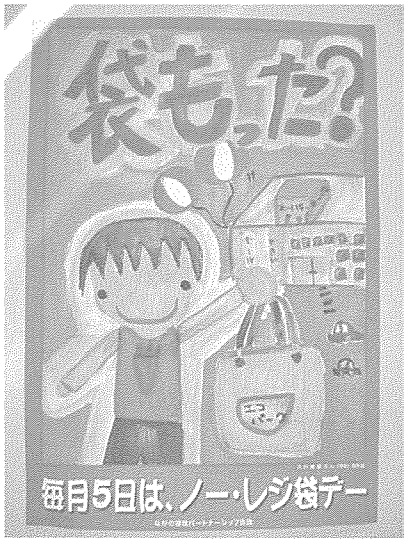
マイバッグ持参率60・3％。今年の3月、長野市で初めて60％超えをしました。しかし、現在、チームが目指しているのは80％です。

「ごみ減量に対して市民が主体的に行動し、地球の恵みを大切にしている市民の暮らしのあるまち」これは平成15年「アジェンダ21ながの」に謳われたレジ袋チームの目指した理想のまちです。13年前のマイバッグ持参率は10％前後、大量生産・大量消費・大量廃棄の時代でした。その使い捨て文化の象徴となっていたのが『レジ袋』です。

当初、市民団体、スーパー等の事業者や行政との協働により市民意識を高め、レジ袋の削減をするために、マイバッグ持参率30％を目指し、現在も続いている「毎月5日のノーレジ袋デー」のキャンペーン活動を開始しました。その甲斐あり、ようやく持参率は50％の大台を超えました。しかし、目標値の80％は、意識啓発だけでは難しい。現在、有料化の店舗は長野市内でもかなり増えています。システムとしてあるいは文化として広く市民の間に定着しなければ私たちのミッションは達成しません。

私たちの目指した理想の街の市民意識は、毎日の暮らしの小さな行動「マイバッグ持参」から始まるのでは…。

今年の活動は、「キッズ用パンフ作成」「マイバッグふぇすた」「持参率調査」など。あと一息と思いつつ活動しています。

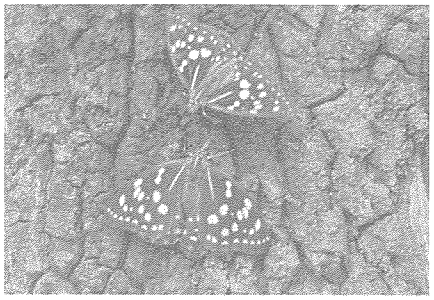


啓発用ポスター作成、小中学生より募集（H17年）

小生物の生育環境保全プロジェクト

事務局　小林正

次世代を担う子供たちに伝えていくために



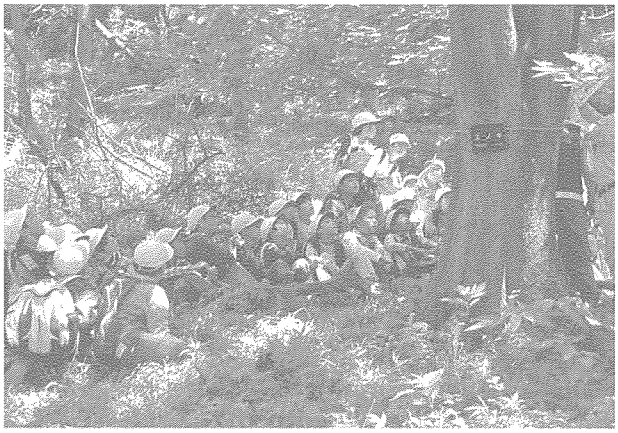
オオムラサキ

小生物の生育環境保全プロジェクトはオオムラサキ生息地竹ノ入の保全管理を見据えて2年前に結成されました。このたび地権者の飯山陸送様が次世代の子供たちのためにと長野市へ寄付されたことは、大変ありがたいことです。この場所では20年ほど前に、自然観察グループ「スハマ会」が里山小生物の復活を目的にオオムラサキの保全に取り組みました。松代周辺のオオムラサキの食樹「エノキ」を探した結果、この場所にたどりついたということです。

この環境を、次世代を担う子供たちに伝えていこうと、当初は東条小学校の新井清規先生の積極的な協力により、越冬幼虫から孵化するまでの生活史の観察会を行うことができました。この観察会は総合学習の位置づけで引き継がれ現在に至っています。今後は周辺小学校にも参加を促し、自然学習林として定着させたいと願っています。

さらにオオムラサキだけではなく、「エノキ」を食樹とするゴマダラチョウ・テングチョウ・ヒオドシチョウの生態も観察して行きたいものです。

また、周辺部の森林ではエドヒガン20数本・カスミザクラ10数本・ヤマモモ20数本など次々に花をつけ、それは見事な景観です。このかけがえのない自然環境を次世代に伝えていけるよう、より充実した活動を目指しています。



観察会（H27年6月）

こどもの環境学習支援プロジェクト

チームリーダー　渡辺隆一

長野を「国際環境都市」へ

長野には、こどもエコクラブも多いが、中学生、高校生になると活動の場が無いことが、環境活動を地域に根付かせるうえで大きな課題であります。国連環境計画会議など、海外の環境交流活動にこどもたちを参加させることで、国際的な交流は、こどもたちの意識や考えを大きく成長させることがわかりました。

そこで、中高大学生（ユース）を対象とした国際ユース環境会議を開催しました。国内外のユースが交流することで、ユース自身による新たな活動やネットワークの構築が進んできています。会議の運営や実施を通じて、こどもから大人までの各世代の環境活動がつながり、長野を「国際環境都市」として大きく発展させていけたらと考えています。

大会終了して全員で集合写真

2013年から始まったこの取り組みは今年で5回目を迎え、多くのユースや一般参加者を得ました。今後とも継続して開催できるような基盤を作り、発展させていきたいと考えています。

●これまでの実績

第1回2012年6月　鬼無里
第2回2013年8月　大岡
第3回2014年9月　戸隠
第4回2015年6月　鬼無里

第5回目（今年）
2016年6月24日～26日
小田切錬成センターで開催

スカイプによる国際会議

光害対策プロジェクト

チームリーダー　陶山徹

3つの活動成果を今後に繋いで

●活動目標

光害対策チームの活動目標は「川辺には蛍が舞い、夜空を見上げれば天の川、適度に足元が明るい照明が生み出す安全で、自然が身近に感じられるまち」をつくることでした。

この目標を達成するためにこれまで活動を進めてきました。活動は大きく三つに分けられます。

●具体的な活動

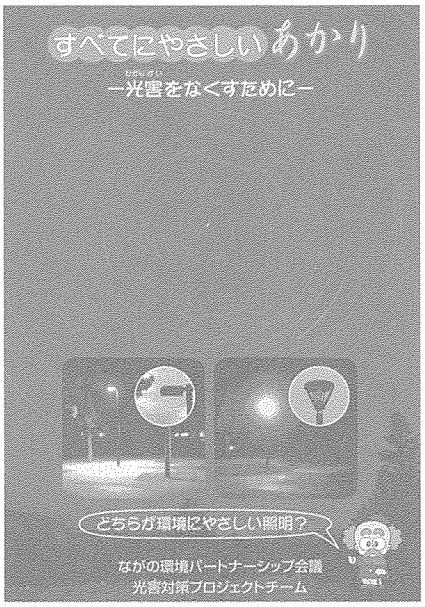
一つ目は、長野市内の夜空の明るさ調査です。1993年より長野市内の夜空の明るさを継続的に調査してきました。継続的にデータを蓄積することにより、長期にわたる光害の変化を知ることが可能になりました。

二つ目は、光害の啓発活動です。キャンドルナイトコンサートやライトダウンイベントにおける星空観察会を実施してきました。これまで馴染みの薄かった光害に対する市民の認識を高めることができました。

三つ目は、光害対策型照明設置の推進です。市内に大きな施設ができる際に、光害対策型照明の設置を提言してきました。これにより、北部スポーツレクリエーションパークには光害対策型の照明が設置されました。

●今後に繋いで解散

平成27年度をもって光害対策チームは解散します。これまでたくさんの方々のおかげで活動をしてくることができました。主な解散の理由としては、実際に活動しているチームメンバーの数が少なくなり、活動が難しくなってきましたことがあげられます。しかし、チームが行ってきた夜空の明るさ調査など一部の活動については、市立博物館と天文同好会「きらきら」によって継続していく予定です。



パンフレット表紙

太陽エネルギー普及プロジェクト

チームリーダー　田中昭

更なる普及啓発を目指して チーム活動の継続を

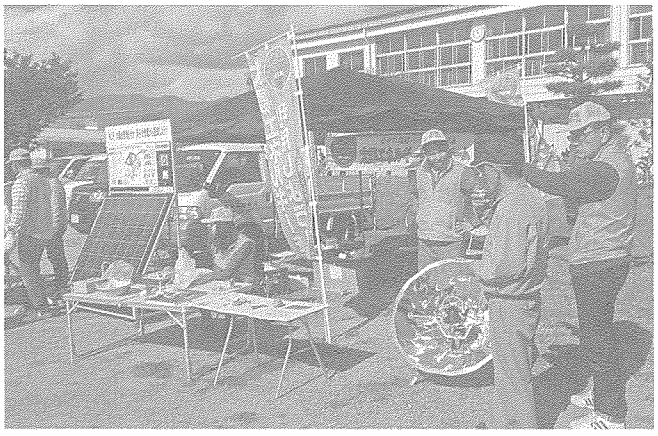
地球温暖化は益々顕著になってきており、CO_2削減は絶対に実行しなければなりません！更に危惧しているのは、気温上昇に伴い今まで眠っていたメタン生成菌が目を覚まし、空気中にメタンがどんどん増えていることが解ってきたことです。メタンガスが増えると温暖化が更に20倍も早くなるといわれています。これは2億5千年前に恐竜や生物の95％が死滅した状況と同じとのこと。本当に早く温暖化をストップしなければなりません。その一つして太陽エネルギー利用は更に進めるべきと考えています。もし地球に降り注いでいる太陽エネルギーを全部受け止めたなら、世界中の一年分のエネルギーをたった一時間で補うことができる程すごいパワーを持っています。もっと太陽エネルギー利用（発電、熱利用）を推進していきましょう！今後10年以内に脱原発を実現するためにも、ほかの自然エネルギーを含めて、多くの方に知識の共有を図り、もっと太陽チームの活動を持続して、そして更にパワーUPしていきたいと思います。

我がチームの活動は地道な活動ですが、少しずつですが確実に太陽エネルギー利用に感化できています！

太陽光発電システム普及促進事業補助実績

（平成27年度長野市環境白書より）

平成11年～26年までの累計
・補助件数　8,077件
・最大出力　35,634.55kW
（市が補助金を交付した件数であり、市内に設置された全システム数ではない。）



川中島自治会フェスタ（H27年10月）

生ごみ削減・再生利用プロジェクト

チームリーダー　河西弘明

ミッション達成の検証と今後10年を見据えて

アモーレフェスタ（H27年11月）

ミッション達成の第一は、生ごみ削減のキャンペーン活動（フォーラム・講習会・ポスターや標語の公募作製）。第二は、再生利用のキャラバン活動（住民自治協議会や自治会等を巻き込んで生ごみの堆肥化とその利用）。第三は、生ごみ堆肥作りの改良（堆肥化基材と専用段ボール箱、完熟堆肥を使った培養土の開発）とさらに生ごみ堆肥の利用を促進させる活動（生ごみ堆肥化講座と堆肥の利用、更にキッズ生ごみ農園クラブの創設）。併せて実験農場3年を経て、2016年春から「生ごみ農園」という新たなステージに入りました。

10年後の生ごみは、地域のエネルギー資源として活用できることを目論んでいます。生ごみのエネルギー変換は、嫌気性微生物による水素発酵で水素やエタノールの生成が現実化するであろう。バイオガス発電や燃料電池車の普及が後押しすることになるだろう。生ごみの資源ごみ利用率は、現在の5倍位になるだろう。そうすれば目標とする可燃ごみに占める生ごみの割合35％達成が夢でなくなります。

緑ヶ丘小学校　臼井　資郁さんの作品

生ごみ削減キャンペーン

ながの環境パートナーシップ会議

協賛：宝資源開発㈱　信濃理化学工業㈱　信濃楽農会

聖山自然復元プロジェクト

チームリーダー　遠藤和夫

平成27年の成果と今後の課題

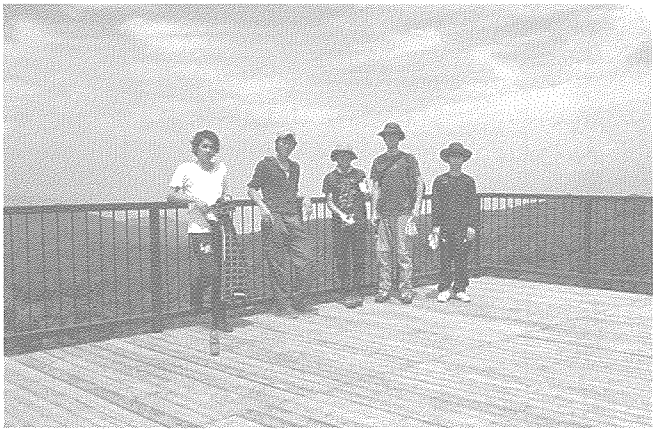
スキー場跡地の自然復元プロジェクトは、平成27年に名称を「聖山自然復元プロジェクト」に変更した。当面の活動は、従来通りスキー場跡地の生物多様性を保全する活動であるが、将来的には活動範囲が拡大することも考えられる。

名称変更のきっかけは、地元大岡の森林保全団体からの「聖山全体の保全を考える上で名称を変更した方が良いのではないか！」との問いかけに答えたものである。活動範囲が今後どのように拡大していくかは未知であるが、これまで地元の皆さんがほとんど参加していなかったプロジェクトの活動に、地元の方との接点が生まれたという意味では重要なポイントである。

昨年は、信州大学の学生さんが4人参加し、平成24年から続けてきた草原の維持作業が一巡して、一通り侵入樹木の伐除は終了した。しかし、既に4年前に刈り払った樹木からは、2mを超す若木が生長している。そこで、平成28年からは対象地域を拡大しながら、草原の生物多様性を維持していこうと考えている。

昨年はブナの実が豊作であった。と言ってもバケツ半分のブナの実の内で水に沈んだ充実した実はほんの一握り、さらに今年芽生えたのはたったの3本、他の樹木は毎年50％程度で稚樹が確保できるので、今後の活動のネックは、ブナの稔、不稔に左右されるのではなかろうかと懸念している。

幸か不幸か、大岡地区住民自治協議会の地域振興委員会の責任者になっている関係で、聖山周辺の登山道の整備も地域活動の一環で実行しなくてはならない立場にある。自然保護と地域振興の両立という難しい天秤を裁量して地域を活性化していきたい。



スキー場展望台で作業後の休憩

水環境プロジェクト
チームリーダー　村松聖夫

「水に親しめる川づくり」に参加して十五年の回想

ながの環境パートナーシップ会議「生態系豊かな水に親しめる川づくり」プロジェクトに十五年前に参加しました。当初は活動計画を決めるにも、色々な思いや意見があり、まとめるのに相当な時間がかかりました。どうしても意見が合わず、何人かの方は、辞めて行きました。数年後にリーダーを引き受けて、時には悩みながら計画、実行して参りました。

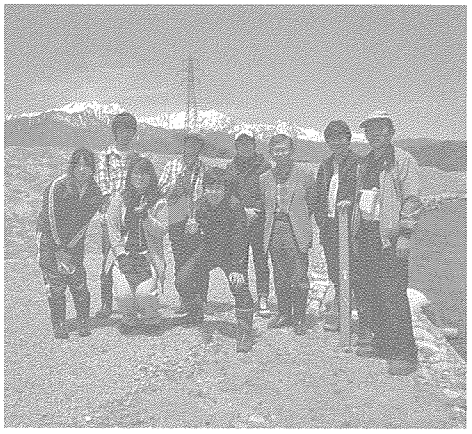
良かったことを列記してみました。

①県内の河川改修済み現場の視察（数カ所）。最近では計画の時から、地元住民の意見を聞きながら進めることにより、完成後のメンテナンス、ゴミ拾い等積極的に協力して頂ける。これを参考にして、長野市川中島今井原の、旧長野冬季オリンピック選手村の中を流れる用水（三〇〇m）を地元の人たちと一緒に、市に要請して、ホタルの飛ぶ河川に三年間かけて改修することが出来ました。

②自然観察会は、思ったより多くの参加者があり、いずれの観察会も大変喜ばれました。

③信州大学工学部の学生の皆さんが、毎年、「地域環境演習」の授業の一環としてチームに参加して頂き、積極的かつ活発に行動して頂きました。学生の参加はトータル五十人以上になると思われます。その人たちは地元や国内外でその時の事を思い出していることでしょう。

残念ですが、私の体調不良、グループ員の減少で、後継者が見つかるまで暫く休会といたします。長い間ご協力ありがとうございました。


信州大学工学部地域環境演習の学生たちと

平成28年度通常総会のお知らせ
日時：6月12日（日）10時より
場所：ふれあい福祉センター5階
会員の方の出席をお願いいたします。

編集後記

松代の自宅から職場の大豆島まで、片道12キロメートル。天気の良い日は自転車で通っています。千曲川の土手を走って行くのですが、とにかく景色が素晴らしいです。行きは、朝日に照らされた北アルプスを左に見て、河川敷に広がる農作物の出来具合を眺めながら走ります。春には桜、桃、菜の花などが一斉に咲きます。帰りは夕陽に向かって、静かな川面を見ながら、近くから遠くまで続く山々で目を休ませます。

この景色を、自分の子どもが大人になっても見せてあげたいなと思う、今日この頃であります。（峯村）

『ほっとする長野』のために、皆さんにおもしろく読んでいただくために編集に携わってきました。今回の号で最終号となりました。長い間ありがとうございました。（渡辺）

事務局人事異動のお知らせ

4月1日の人事異動により、事務局長は小林環境政策課長に代わり田口課長、新たな局員として関口係長が加わりました。

手をむすんでのあゆみ

平成15年	11月　創刊号　カラー版8ｐ＆プロジェクト概要8ｐ
16年	2号2色刷り色上質紙プロジェクト報告
17年	3号表紙市民の森チーム、4号表紙環境フォーラム、5号特集大型店出店によるCO_2排出量
18年	6号特集第6回ながの環境フォーラム、7号特集水俣視察レポート、8号特集仙台視察
19年	9号、10号特集プロジェクトの活動報告、11号、12号P会議の紹介
20年	13号工学部地域環境演習、14号、15号紙面変更（縦書モノクロ）、16号
21年	17号、18号、19号
22年	20号、21号
23年	22号、23号、24号
24年	25号（特集10周年のあゆみ）26号（設立十周年記念事業開催）、27号
25年	28号特集アジェンダの実現を目指して、29号、30号新アジェンダ作成
26年	31号、32号、33号（キラピールポ環境部取材）
27年	34号（キラピールポ住民自治協取材）、35号（プロジェクト27年度活動アピール）、36号
28年	5月最終号37号プロジェクトの検証と10年後を見据えて

《発行》
ながの環境パートナーシップ会議
市民、事業者、行政の協働（パートナーシップ）により環境保全に取り組んでいます。

《編集・事務局》
〒380-8512
長野市大字鶴賀緑町1613
長野市環境政策課内
TEL 026-224-5034
FAX 026-224-5108
E-mail:kankyo@city.nagano.lg.jp
URL http://nagano-ep.net/